

# CAGLIERO'11

カリエロ11



第3号

~ サレジオ会宣教ニュース ~

2009年3月11日

サレジオのミッションにたずさわる会員、友人の皆さん！

四旬節に私たちは、十字架にかけられ復活されたイエス・キリストへの信仰の出来を再発見するように招かれます。復活の出来事は、教会の使命・ミッションの核心です。

教会は次のように考えています。「宣教活動についての関心を促進することを目的とするさまざまな活動は、つねにこれらの特定の目標に適合されなければなりません。つまりそれは、神の民が教会の普遍的な使命を共有していることを知らせ、彼らを養成し、諸國の民のための召命を促進し、福音化の仕事において協力を奨励することです。」(回心「新しい生の使命」83)

世界5大陸のサレジオ会宣教地でのような緊急なニーズがあるのか、私たちは十分に認識していないかもしれません。皆さんの祈りと関心のうちに、諸國の民へと赴く宣教師を今、2009年に最も必要とする宣教地の意向を加え、多くの若い会員が（それほど若くない会員も含めて！）このサレジオ会の聖年に、主の宣教への呼びかけに応え、すべての人への宣教mission ad gentesのために信しのみなしで絶長に志願するよう、祈っていただきたいのです。実際にすることは、祈ること、ほかの人たちにも祈ってもらうこと、私たちの働く場で出会う若者たちと話すこと、宣教地の緊急なニーズについて、直接人々に、あるいはメディアを通して語ることです。

## 宣教顧問

ヴァツラフ・クレメンテ神父

## 本号の内容

- ・ 宣教顧問より
- ・ 新しい宣教師求む  
(アフリカ)
- ・ 2009年3月  
サレジオ会の宣教の意向
- ・ 宣教師志願の手紙

## サレジオ会宣教地、新しい宣教師求む……！（アフリカ）

管区・国	必要な言語	状況、求められる宣教師の資質
NOR 中東・7か国	イタリア語、アラビア語、トルコ語、ペルシャ語など	アラブの国。多宗教の環境。若さを取り戻す必要のある管区。生活のあかし。
FRA モロッコ	フランス語、アラビア語	イスラムの環境。教育（技術）。生活のあかし。
IRL チュニジア	フランス語、アラビア語	イスラムの環境。校長。生活のあかし。
ZIM ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、ナミビア	英語、地方の言葉	会員の数が少ない。共同体を力づける必要性。技術教育。修道士が必要。
MOZ テテ	ポルトガル語	少数の会員。農村部・モアティゼ。
MDG マダガスカル	フランス語、マラガス語	少数の会員。第一次宣教・ペマネヴィキー。
ATE チャド、赤道ギニア	スペイン語、フランス語	少数の会員。イスラム、多宗教の環境。
AFW ガーナ、シエラレオネ	英語	責任を負うことのできる年齢の会員が少ない。技術面で力のある修道士。技術訓練校の校長。その他の学校。
APE 南スーダン	英語、アラビア語	会員数の少ない委任地区。南部の第一次福音宣教。北部はイスラム教。
AGL ウガンダ	英語	共同体の数が足りない。

## 2009年3月 サレジオ会の宣教の意向

中国管区のサレジオ家族のすべてのグループに、よい養成担当者、リーダー、導き手が育ちますように。

中国管区全体に渡り、教会は多くの社会的・文化的変化に直面しており、キリストの福音に深く根差した応答が求められています。サレジオ家族の諸修道会は召命司牧にたずさわっており、信徒のグループ（協力者会、同窓会、VDB、CDB）は、キリスト者として、サレジアンとしての堅固な養成を必要としています。

## 宣教：ドン・ボスコのエネルギーあふれる愛徳の究極の実り

初めに（神の恵みの後に）ドン・ボスコの心がありました。ドン・ボスコについて私たちが最も強い印象を受けるのは、その生き方が統合されていたことです。歴史を通して見ても、ドン・ボスコは、その人間性と事業との間の統合の最も感嘆すべき例証です。9歳のときの夢から73歳のときの最後の病に至るまで、明確なアイデンティティーをもった召命の発展を見ることができます。すなわち、若者と貧しい人々のための



da mihi animasです。ドン・ボスコは初めから聖なる人でした。彼は情熱的で、高貴な魂をもち、その聖なる情熱は常に愛によって駆り立てられました。

私たちの会憲の第10条に次のようにあります。「ドン・ボスコは神の靈感を受けて独創的に生き、そして働き、その方法をわたしたちに伝えた。これがサレジオ会精神である。この精神の中心と総合は牧者の愛であり、その特徴は、創立者の中に、また、本会の草分けの時期にきわめて顕著に示されていた若々しい活力である。それは、靈魂を求める、神のみに仕えさせる使徒的情熱である。」ドン・ボスコの宣教への取り組みは、ほか

でもない、牧者の愛のエネルギーと強い促しの、究極的な実り、生き生きとした表れだったのです。ここで、聖パウロの愛の賛歌（1コリント13・4-7）を取り上げ、ドン・ボスコの生き方に当てはめることができます。「愛は強く、大胆で、勇気がある。愛は決して疲れることなく、止むことなく、決してもう十分！」と言うことがない。愛は大いなる地平を目指し、大きな望みを抱く。愛は自らに限りをもうけられることをゆるさず、犠牲を受け入れる。愛は、全世界を抱くために、時間と空間を征服してゆく。」こうして私たちは、ドン・ボスコの生涯における3つのおもな段階を説明することができるでしょう。ドン・ボスコの牧者の愛からとめどなく広がる3つの波です。1841年から1850年くらいまで、ドン・ボスコは主に「Da mihi animas iuvenum! 私に若者の靈魂を与えたまえ！」と言い、青少年のための最初の事業を開設しました。1850年から1860年にかけて、庶民の信仰が大きな危険にさらされていた時、彼は「Da mihi animas plebium! 私に人々の靈魂を与えたまえ！」とつけ加え、教えとキリスト教出版の幅広い事業Lettture Cattolicheを開設しました。そして、弟子の3つのグループ、サレジオ家族の3つの枝を創立するために15年をかけた後、将来を見通しながら「Da mihi etiam animas gentium! 私に諸民族の人々の靈魂を与えたまえ！」とさらに祈りを広げ、最初の宣教師たちを派遣しました。その際、ドン・ボスコが宣教師たちに与えた20の勧告の最初のものは、「金銭、名譽、地位ではなく、靈魂を求めなさい」というものでした。（会憲、著作選集。MB?、389）1888年1月26日、ドン・ボスコは死の病の床につきながら、カリエロ司教に言いました。「宣教の働きによって多くの靈魂を救いなさい！」（MBX四、530）宣教、それは、Da mihi animasからあふれ出る、究極の、大いなる波でした。

### ある宣教師志望の願書

2009年2月25日

チャーベス神父様、

……私はここサレジオ志願院で、私たちの国の首都の郊外にある、貧しい子どもたちの中で働く宣教使徒職の現場で、幸せにしています。ここでの経験は、宣教地に対する意識を私に与え、私の宣教の召命を培い、深めてくれました。……

……サレジオ会で6年間生活し、長上や聰罪司祭との対話のうちに、初期養成の年月のあいだに注意深く識別した結果、～管区に所属する私、Nは、サレジオ会宣教師として志願致します。確かに私の国は宣教師をとても必要としていますが、私が国を離れる代わりに、ドン・ボスコのda mihi animasに促された多くの召命を神が送ってくださるだろうと確信しています。……

……会の必要性をかんがみ、また自分の限界をよく知ったうえで、私はnへ派遣されることを望みますが、会の中でより必要とされる場所があれば、どこへでも行くつもりです。……私の志願は、全くの自由のうちに、何ら強制を受けることなく行うものです。私が派遣される当舎の人々のため、全力を尽くすことをお約束します。……

……ご配慮に感謝し、また神父様のためにお祈りすることをお約束します。

あなたの子として親しみをこめて。